

博士課程教育リーディングプログラム 平成24年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成23年度		
申請大学名	筑波大学	申請大学長名	山田 信博
申請類型	複合領域型（生命健康）	プログラム責任者名	阿江 通良
整理番号	C01	プログラムコーディネーター名	永田 恭介
プログラム名	ヒューマンバイオロジー学位プログラム		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

プログラムの目的：

人類は自然界の脅威のみならず自らの技術が生み出した環境や産物（例えば、環境ホルモンなどの低分子化学物質）によって脅かされている。本ヒューマンバイオロジー学位プログラムの目的は、ヒトの生命の維持、適応、継承のメカニズムを理解して、ヒトの健康に関する地球規模課題の解決に貢献できる専門力を修得し、ヒトが人らしく生きる社会の創造を先導できる国際的トップリーダーの資質を持った人材を育成することである。人の健康に関わる地球規模の脅威を制御するためには、ヒトを対象として疾患の予防と治療を目指す医学だけでは不十分であるとの認識に立ち、本学位プログラムでは生物学、計算科学、物質科学（ケミカルバイオロジー、化学、薬学を含む）をはじめとする多分野の協業により、教育を推進する。特に、ヒトを対象とした研究を行う場合、実験的手段には倫理的限界があり、生命科学分野からの成果をヒトに外挿するために計算科学と融合することが必要である。すなわち、ポストゲノム時代の情報はもとより各種の実験データ及び臨床データを計算科学によって統合し（帰納的方法）、解明されていない現象の発生メカニズムや環境変化、物質投与などによって生じる生体変化を予測した上で（演繹的方法）、この予測を実験的に確かめるとい手法の実現を上記の多分野の協業により図る。

大学の改革構想：

本学では、建学の理念である「開かれた大学」のもとに、未来を開く人材を育成するための教育改革を行い、その改革で開発された教育システムの教育の質を保証するために、学長を機構長とした「教育イニシアティブ機構」を設置し、その機構の下に教育担当副学長を教育院長とした「筑波大学グローバル教育院」を設置して、研究科の枠を超えた分野横断的な複合領域学位プログラムの運営体制を構築した。一方で、「教育組織と教員の所属する組織を分離」し、従来の研究科／専攻の枠組みではなし得なかった教育・人材養成目的に即した教員を多分野から集合させる仕組みの運用を開始している。この2つの方策により、欧米型の学位プログラム形式による教育の改革的な推進が可能となる。

2. プログラムの進捗状況

補助事業の目的を達成するため、平成24年度は以下を行った。

1. プログラムの運営体制の整備：

前年度に引き続き、教育担当副学長を教育院長とした「筑波大学グローバル教育院」の下に、研究科の枠を超えた分野横断的な複合領域型「ヒューマンバイオロジー学位プログラム」を運営するにあたり、担当教員を構成員とするヒューマンバイオロジー学位プログラム教育会議を設置した。プログラム運営の効率化を図るため、その運営は、ヒューマンバイオロジー学位プログラム運営委員会が行った。なお、運営体制の支援のための事務職員9名を配置し、新たに助教6名を採用した。

2. 担当教員の採用・認定：

研究科・専攻の担当教員を本プログラムの担当教員として認定を行い、適切に配置した。
本学位プログラムの運営・教育の強化のため、平成24年4月より特命教授1名（産官学連携アドミニストレーター）、助教6名を配置した。

3. 教育システムの構築：

アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、学位授与基準の策定と公開を行った。
これらを基盤に、カリキュラム書とシラバスの作成を行った。

4. 企業ラボの整備：

(株)島津製作所および花王(株)の企業ラボ設置に向けて設備備品を整備し、運用を開始した。

5. 海外教員ならびに企業からの教員との情報ネットワークの構築：

海外教員に本プログラムの目的等を理解いただき、本プログラムの授業／研究指導担当として教授（グローバル教育院）29名（1名は手続き中）を任用した。うち10名が来学し、World-science Leaders' Seminar, Business Leaders' Seminar及びGlobal Science Weekなどの講義を行った。

6. 施設整備：

総合研究棟Aのグローバル教育院事務室が位置する階に、プログラム専用の教室(セミナールーム)、学生控室、企業ラボの実験スペース、支援事務組織のスペースを整備し、効率的な施設・サポートへのアクセスを可能にした。セミナールームではテレビ会議システムを整備、学生控室では、無線LAN環境、共有コンピュータおよびプリンタを設置した。企業ラボの実験スペースに各種実験機器を導入した。
また、学内にある宿舍をインターナショナルドミトリーとして設定し、学生たちが共同生活の中で、交流・学修活動を促進できる環境を整えた。

7. 情報発信：

プログラム広報のためのホームページ (<http://hbp.tsukuba.ac.jp/>)、facebook (<http://www.facebook.com/Tsukuba.HumanBiology>) を改訂し、プログラムの状況をわかりやすいかたちで配信した。また、プログラムの活動を広報するニュースレターの発行を開始した。プログラム主催のワークショップを4度開催した。

8. 入試と説明会の実施：

海外3カ所（北京、台北、ベトナム）、及び筑波大学において入学試験を実施した。本プログラム説明会を、北京、ベトナム、韓国および筑波大学において開催した。